



2019年度 体験活動プログラム 活動報告

体験型活動ワーキンググループ

2020年3月31日

目次

I	体験活動プログラム実施概要.....	1
II	体験活動プログラム活動報告.....	3
III	体験活動プログラム活動報告会.....	35
IV	付録	
	・ 体験活動プログラム概略.....	39

I 体験活動プログラム実施概要

●概要

学部前期・後期課程の学生を対象とし、大学生活とは異なった考え方や発想、行動様式又は価値観と触れ合うための多様な形態と内容のプログラムを提供するものです。

平成24年度に「体験活動に関するワーキンググループ」を設置し、平成24年度には176名が活動に参加、さらに平成25年度以降は研究室体験活動プログラムを加え、毎年多くの学部学生を様々な体験の場に送り出しています。

●令和元年度体験活動プログラム実施データ

〈プログラムの件数および募集人数〉

○ 提供プログラム数：100件、活動実施プログラム数：85件、募集人数：690名

区分	プログラム提供件数	プログラム実施件数	募集人数
国内プログラム	61件（61%）	52件（61%）	392名（56%）
海外プログラム	21件（21%）	17件（20%）	183名（27%）
研究室プログラム	18件（18%）	16件（19%）	115名（17%）
全プログラム	100件（100%）	85件（100%）	690名（100%）

〈出願、参加状況〉

- 全プログラムでの総募集人数690人に対し、出願者数は642名（93%：募集人数比）、出願者のうち、参加者数は368名（57%：出願者数比）。
- 国内プログラムは総募集人数392名に対し、出願者数は257名（66%：募集人数比）、出願者のうち、参加者は179名（70%：出願者数比）。
- 海外プログラムは総募集人数183名に対し、出願者数は292名（160%：募集人数比）、出願者のうち、参加者は129名（44%：出願者数比）。
- 研究室プログラムは総募集人数115名に対し、出願者数は93名（81%：募集人数比）、出願者のうち、参加者は60名（65%：出願者数比）。

区分	総募集人数	出願者数	参加者	不採択
国内プログラム	392名	257名 〈66%〉	179名 《70%》	78名 《30%》
海外プログラム	183名	292名 〈160%〉	129名 《44%》	163名 《56%》
研究室プログラム	115名	93名 〈81%〉	60名 《65%》	33名 《35%》
全プログラム	690名	642名 〈93%〉	368名 《57%》	274名 《43%》

〈 〉内は募集人数との比率、《 》内は出願者数との比率

なお、プログラムに出願し、不採択となった者が別のプログラムに出願しているため、出願者数は延べ数を示す。

また、研究室プログラムについては複数の申請が可能となっており、出願者数及び参加者数は延べ数を示し、不採択者数には採択後に参加を辞退した者及び活動中止となったプログラムに参加を予定していた学生の数を含む。

〈採択者の属性〉

◆男女別内訳

○ 参加者368名の男女別内訳は、男子学生が208名（57%）、女子学生が160名（43%）。

	男子学生	女子学生	計
参加者の男女別内訳	208 (57%)	160名 (43%)	368名 (100%)

◆学年別内訳

○ 参加者368名のうち、学部前期課程学生は181名（49%）、学部後期課程学生は187名（51%）。

○ 参加者368名の学年別内訳は、1年生80名（22%）、2年生101名（27%）、3年生105名（29%）、4年生77名（21%）、5年生4名（1%）、6年生1名（0%）。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	男子	女子
法			5	20			25	14	11
医			17	4	4	1	26	14	12
工			30	6			36	33	3
文			15	9			24	11	13
理			4	4			8	3	5
農			12	4			16	9	7
経済			3	12			15	12	3
教養	80	101	9	10			200	103	97
教育			8	6			14	8	6
薬			2	2			4	1	3
計	80	101	105	77	4	1	368	208	160

教養学部欄の「1年」、「2年」の欄は、前期課程の学生を示す。

◆学部前期課程学生の科類別内訳

	文一	文二	文三	理一	理二	理三	計
1年	10	6	14	24	21	5	80
（国内）	5	3	9	6	9	0	32
（海外）	4	3	4	7	5	1	24
（研究室）	1	0	1	11	7	4	24
2年	19	9	25	21	25	2	101
（国内）	12	3	20	10	12	1	58
（海外）	7	6	4	9	8	1	35
（研究室）	0	0	1	2	5	0	8
計	29	15	39	45	46	7	181

Ⅱ 体験活動プログラム活動報告

国内プログラム名称	ページ数
1 療育を知ろう	5
2 東大こだま分教室の学習支援	5
3 そよ風分教室の活動支援	5
4 地域包括ケア体験プログラム	6
5 東大病院入院中の難病の子どもの家族を支援するドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのインターンシップ	6
6 TSCP学生委員会による本学低炭素キャンパス活動	6
7 東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト（干潟調査）	7
8 石垣島白保のサンゴ礁調査 赤土流出のモニタリングと現地文化体験	7
9 高校魅力化プロジェクト～超人口減少・少子高齢化・財政難の離島中山間地域で学習支援と課題発見・解決～	7
10 困難を抱える子ども達の自然体験活動をサポート！ ～海で・山で・川で～	8
11 子ども達の自然体験活動をサポートするリーダーにチャレンジ！ ～山・海・川・湖でダイナミックな体験を～	8
12 フル・インクルーシブ教育を実践する公立小学校でのゲスト・ティーチャー体験プログラム	8
13 ～復興まちづくりのイベント運営体験～	9
14 異才発掘プロジェクトROCKETの子どもたちとの活動から探る新しい学びの形	9
15 日本語教室でのボランティア	9
16 外国とつながりを持つ小・中学生対象 日本語・学習支援教室でのボランティア活動	10
17 日仏の医工学間の国際共同研究（SMMIL-E：癌先端医療技術の連携）を知ろう	10
18 学術出版の体験的学習	10
19 ポスト新しい公共の場づくり事業協働体験	11
20 未来を指向する地方自治体の活動への参加	11
21 陶板複製名画美術館を体験する	11
22 農家に泊まろう！ ～農林業のフロンティア・みなかみで一次産業の可能性を考える～	12
23 JICAの国内研修現場で国際協力を知る	12
24 誰も知らない京都を作り出せ！ ～東大生しかつけない旅行プラン@KYOTO～	12
25 「好き」だけで終わらせない！ ～自らの手でファッションの未来を創ろう～	13
26 農作物なんて自由自在？～植物工場で次世代の食糧生産を考える～	13
27 測量船による海洋観測実地体験	13
28 犯罪被害者支援に関する事業の実施	14
29 再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン	14
30 地方創生総合戦略を学ぶ！ ～自治組織・市・広域自治体協議会の連携で未来を拓く～	14
31 今、地方が面白い！ 地域に根付く“シゴト”の魅力に触れるローカルスタディツアー	15
32 加賀温泉郷まるごとキャンパス体験	15
33 文化ワークショップを基本とした過疎・高齢地区のまちづくり体験プロジェクト	15
34 おじゃり申せ種子島！ 宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム（冬編）	16
35 農業・牧場作業体験@北海道	16
36 どっぷりディープな農業・漁業体験（DDNG）	16
37 希望学プロジェクト ふくい体験プログラム（池田町）	17
38 中山間地域を見る・感じる・考える ～北海道鷹栖町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう	17
39 都内でも農林作業フィールドワーク体験	17
40 聖地熊野の歴史文化と自然を体験しつつ、新宮市の文化行政を学ぶ	18
41 漁村地域のフィールド調査・文化体験を通してこれからの地方のあり方を考える	18
42 「宍道湖」のしじみと水草のフィールド活動をとらえて水環境改善と生態系保全を考える	18
43 山羊、豚、牛、馬の世話と乗馬を体験しよう	19

国内プログラム名称

ページ数

44	森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー	19
45	伊豆の体験活動ー南伊豆という一地域との連携に学ぶー	19
46	北海道の遺跡博物館における学芸員体験と冬のオホーツク文化体験	20
47	地域イイトコ発見プロジェクト ～フィールドワークから学ぶ地域の健康～	20
48	被災地福島島の農業と環境放射能を知るツアー	20
49	子育て・保育行政を知ろう！ ～金沢市への訪問とフィールドワークを通じて～	21
50	演習林の教育研究を支えよう！ ～日本最初の大学演習林で体験する3つの緑の下～	21
51	中世の時代が輝く島根県益田市歴史観光プログラム企画開発プロジェクト	21
52	森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験 ～世界の水文研究を支える90年を全身で感じよう～	22

海外プログラム名称

ページ数

1	中国・海南島の自然保護区管理を知る	23
2	大学・企業・文化体験 in 韓国2019年 ー韓国を知る、韓国から日本を見るー	23
3	シンガポールでビジネスを学んでみよう	23
4	医学と平和	24
5	インド体験活動 ーインド工科大学での日本語授業サポート・インド赤門会との交流ー	24
6	TOPS2019 (Tokyo Oxford Programme of Summer2019)	24
7	英国ロンドン、海外で働くとは	25
8	ミュンヘン工科大学 (TUM) での国際交流体験 ー日本語授業サポートおよびワークショップー	25
9	サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動	25
10	アラブ首長国連邦の「いま」	26
11	ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション	26
12	GTL Summer Intern for Systems Method Experience at MIT	26
13	アメリカで仕事をする事の素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう	27
14	コロンビア大学所属東大卒業生の教授、研究者、学生を訪問・ディスカッション	27
15	ニューイングランド有機農場でのCommunity Supported Agriculture体験 (米国)	27
16	オーガニック農場でのSustainable agriculture 体験 (米国)	28
17	米国ソルトレイク市および近郊における国際交流・研究体験活動	28

研究室プログラム名称

ページ数

1	再生医療の研究開発に触れる	29
2	「医の知」に触れるー手術とは何か？体内臓器を探ってみましょう！	29
3	先端蛍光イメージング技術を用いた脳科学・神経科学研究体験	29
4	生体分子から動物個体まで～生物化学の研究体験	30
5	農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定	30
6	脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い	30
7	宇宙とラボをつなぐプラズマ物理	31
8	イオン液体の実験を通して学ぶ化学研究体験	31
9	生命科学分野の研究領域の可視化ツール入門	31
10	サイバーセキュリティの最前線に触れてみよう！	32
11	みんなで翻刻ソン	32
12	光学・量エレ系研究室短期体験	32
13	水循環・水資源研究短期体験	33
14	DO-IT (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology) Japan 2019夏季プログラム	33
15	知能移動ロボットの行動と制御	33
16	微生物を用いたバイオテクノロジー体験	34

【国内プログラム】

01. 療育を知ろう

活動内容は、重症心身障害者の通所活動の補助とリハビリの見学、外来診療の見学だった。重症心身障害者とコミュニケーションが取れたと分かったことは、この実習のなかで一番嬉しかったことで、言葉が話せなかったり表情が乏しくても、目線や力の入り具合から気持ちを汲み取ることができた。社会には障害者に対する偏見や嫌悪、拒否感があるが、一番大切なことは彼らと会って触れて一生懸命コミュニケーションを取ろうとすることだと思う。そうすれば、彼らが笑ってくれることがどれほど私達に幸せをくれるかが分かり、彼らを社会から排除しようとする人はいなくなるのではないかと思った。

日程：2019/8/15(木) - 8/27(火)

参加学生：1名

活動場所：東京都八王子市 島田療育センターはちおうじ

備考：島田療育センターはちおうじ

<https://www.shimada-ryoiku.or.jp/shima8>



島田療育センターはちおうじ

02. 東大こだま分教室の学習支援

病院に長く入院している児童・生徒の学びの場である東大こだま分教室で、授業のアシスタントとして、ディスカッションのパートナーを務めたり、休み時間に話し相手になるなどの活動を行った。同級生のような立場でコミュニケーションをとったり、一緒に遊んだりすることによって、お互いを知り、親しみがわくことを実感した。この活動を通して、今まで知らなかった社会の側面を知り、新たに問題を提起したり、考察を深める機会にもなった。

日程：2019/8月 - 2020/3月

参加学生：3名

活動場所：東京大学医学部附属病院東大こだま分教室（本郷キャンパス）

備考：東京都立北特別支援学校 東大こだま分教室

<https://www.h.u-tokyo.ac.jp/kodama/top/top.htm>



こだま分教室



東京大学医学部附属病院

03. そよ風分教室の活動支援

東京都立光明学園そよ風分教室は国立成育医療センター内にある分教室である。様々な学年の子供たちが一緒に学ぶ、生徒の入れ替わりが多いなどの特色があり、一人ひとりの状況に合わせて学習をすすめていく。活動では授業に同席し、英語の授業で読み方を教えたり、理科の授業で天気図の見方を一緒に学んだりした。病児教育の現場を学ぶとともに、ボランティアを行う心構えについても考えることのできた体験活動であった。

日程：2019/7月 - 2020/3月

参加学生：1名

活動場所：国立成育医療センター・そよ風分教室（東京都世田谷区大蔵）

備考：東京都立光明学園 <http://www.komeigakuen-sh.metro.tokyo.jp/>

国立成育医療研究センター <https://www.ncchd.go.jp/hospital/support/>

国立成育医療研究センター「もみじの家」事業室 <https://www.home-from-home.jp/>

04. 地域包括ケア体験プログラム

千葉県柏市主催の地域包括支援会議や地域包括ケア施設「ビュートゾルフ 柏」の運営会議、厚生労働省の地域医療計画課の科研班会議などを聴講する中で、行政と民間を問わずに、地域包括ケアに携わる様々な職業の方と意見交換を行えた。そして、全体の一部ではあるが、地域における包括支援事業を俯瞰することができた。「ビュートゾルフ 柏」ではケア施設としての役割だけではなく、高齢者同士で支え合う仕組みが自然と構築されており、“高齢者の居場所づくり”の新たな形を見て感銘を受けた体験となった。

日程：2019/11月-2020/2月の数日

参加学生：3名

活動場所：千葉県柏市

備考：柏市：長寿社会のまちづくり ～地域包括ケアシステムの構築に向けて～

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/060200/p011002.html>

IOG 東京大学高齢社会総合研究機構 <http://www.iog.u-tokyo.ac.jp>



柏市庁舎

05. 東大病院入院中の難病の子どもの家族を支援する ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのインターンシップ

ドナルド・マクドナルド・ハウスは、長期入院している子供達の家族のための滞在施設である。東京大学医学部附属病院に入院・長期通院している子供とその家族が過ごす施設で、ボランティアとして、ハウス内の清掃やベッドメイキング、チャリティイベントの参加、広報活動などに携わった。活動はすでにボランティアとして参加してる一般の方々と一緒に行った。施設利用者のへの配慮などと共に、チャリティの考え方、行い方などを新たに知る機会となった。

日程：2019/7月-2020/1月

参加学生：2名

活動場所：ドナルド・マクドナルド・ハウス東大

備考：公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン <https://www.dmhcj.or.jp>



ドナルド・マクドナルド・ハウス

06. TSCP学生委員会による本学低炭素キャンパス活動

東大サステイナブルキャンパスプロジェクト（TSCP）はサステイナブルな社会のモデルを示すことを目的としたプロジェクトであり、TSCPチームとしてキャンパスの低炭素化を中心に取り組んでいる。TSCP学生委員会はTSCPチームと連携し、活動している。新たなテーマ「キャンパスにおける水使用」を提案し、食堂での実態調査、データ分析などを行った。プロジェクトを行う手法を学び、大学内においては、それぞれの施設のもつ機能の把握とバランスをとることの重要性を学んだ。活動で学んだことは今後も社会でも活用していきたいと感じた。

日程：2019/7月-2020/3月

参加学生：1名

活動場所：本部棟9階施設部（本郷キャンパス）

備考：TSCP（東京大学サステイナブルキャンパスプロジェクト） <http://www.tscp.u-tokyo.ac.jp/>

TSCP学生委員会（UTokyo Sustainability） <https://utsustainability.wixsite.com/utsustainability>

07. 東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト（干潟調査）

東日本大震災の津波による影響で攪拌された干潟の生態系の様子を調査し、自然の回復状況を定期的に確認することは復興にとって重要である。このプログラムでは、生物を採取し、記録をとるなどの科学的調査を行った。専門家の指導のもとで行うので、初めてであっても無理なく活動することができた。ボランティアに携わること、世代やバックグラウンドが違う参加者同士のコミュニケーション、干潟の重要性を体感したこと等初めて経験したことも多く、いろいろな物事に最初の一步を踏み出すことの意義を感じた。

日 程：2019/8/3（土）-8/4（日）

参加学生：1名

活動場所：宮城県松島町、利府町

備 考：https://earthwatch.jp/pj_domestic/detail/detail_higata.html

https://earthwatch.jp/pj_domestic/detail/briefing_higata.pdf

<https://www.earthwatch.jp/index.html>

https://www.earthwatch.jp/about_us/images/ewj_2018report_web.pdf

08. 石垣島白保のサンゴ礁調査 赤土流出のモニタリングと現地文化体験

アースウォッチ・ジャパンのプログラムに参加し、サンゴ礁の生態に深刻な影響がある赤土流出の現状や対策を学び、サンゴ礁文化を継承する白保の人々と交流して、環境保全や観光について考えた。環境調査では、シュノーケリングによる赤土堆積量調査、陸上でのグリーンベルト調査を専門家の指導のもとに行った。また、ホームステイを行ったり、交流会に参加し、地元の方々との親交を深め、文化について知識を得た。環境問題や利権問題はあらゆる所に存在し、人々の生活に影響を及ぼしていることを実感した4日間となった。

日 程：2019/8/1（木）-8/4（日）

参加学生：2名

活動場所：沖縄県石垣市白保

備 考：<https://www.earthwatch.jp/index.html>

https://www.earthwatch.jp/about_us/images/ewj_2018report_web.pdf

09. 高校魅力化プロジェクト ～超人口減少・少子高齢化・財政難の離島中山間地域で学習支援と課題発見・解決～

6道県、11地域に分かれて活動を行った。自らの周りではあまり感じることもなかった「教育格差」「情報格差」を初めて体感した。また各地域では高校生に学習指導をするのみならず、地域住民との交流や市町村役場職員との懇談を行う機会があった。活動期間のまとめとして高校生に向けて行った講演では、大学が無く大学生が珍しい地域であるにも関わらず「東大生を身近に感じた」「着実な努力の結果を見た」と非常に好評であった。

日 程：2019/8/1（木）～9/16（月）の内3週間以上

参加学生：15名

活動場所：北海道：利尻町、夕張市、白糠町、厚沢部町、島根県：海士町、愛媛県：上島町（弓削島）、伊方町、熊本県：甲佐町、沖縄県：石垣市

備 考：株式会社Prima Pinguino <https://pripin.co.jp/>

高校魅力化プロジェクトHP <https://miriyokuka.com>



公営塾での授業（利尻）

10. 困難を抱えるこども達の自然体験活動をサポート！ ～海で・山で・川で～

国立青少年教育振興機構が関連機関と連携した子供達の様々な体験を支援するプログラムに、自分の希望する地域・プログラムに個別に参加し、ボランティアスタッフとして子供達の活動をサポートした。自然体験、キャンプ、炊事体験、公共乗物体験など日頃経験できない様々な活動を通して、子供達は恐怖感を克服したり、人と助け合って物事を成し遂げることを学んでいった。そうした子供達の成長を目の当たりにしたことで、自分自身も気づくことが多く、この経験が何らかの形で将来にも役立つと実感した。

日 程：2019/7月-9月

参加学生：3名

活動場所：福岡県筑前市、群馬県前橋市、新潟県妙高市（実施施設による）

備考：国立青少年教育振興機構 <https://www.niye.go.jp/>



キャンプの目標をたてる



子供達の電車体験

11. 子供たちの自然体験活動をサポートするリーダーにチャレンジ！ ～山・海・川・湖でダイナミックな体験を～

国立青少年教育振興機構が企画・実施した淡路島を徒歩で一周するプログラムに、ボランティアスタッフとして参加した。10日間の日程で淡路島を歩く子供達が、安全かつ健康にゴールできるよう配慮したり、子供達の精神的なサポートを行うなどの役割を担った。活動を通して、自分自身の長所に気づいたり、子供達と接する楽しさを感じるなど、いくつもの発見があった。今まで縁遠かったボランティア活動の意義に思いを馳せたり、初めての事にも積極的にチャレンジしていきたいと意欲を持った活動となった。

日 程：2019/8/16(金)-8/26(月)

参加学生：1名

活動場所：兵庫県南あわじ市

備考：国立青少年教育振興機構 <https://www.niye.go.jp/>



トレッキング

12. フル・インクルーシブ教育を実践する公立小学校での ゲスト・ティーチャー体験プログラム

大阪市立大空小学校ではフルインクルーシブ教育として児童の障害の有無を問わず受け入れ“しんどい子”も混ぜて育てる教育方法を取っている。その中でゲストティーチャーとして2週間過ごした学生たちは、一般的に大人が行いがちである「状況に名前を付けて対処」するのではなく「違いを見つめて助け合う」児童達の様子に新鮮さを覚えるとともに、彼らに寄り添って観察を行った。

日 程：2019/9/2(月)-9/13(金)

参加学生：9名

活動場所：大阪市立大空小学校（大阪市住吉区）

備考：大空小学校 <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e731673>
大空小学校を取り上げたドキュメンタリー映画「みんなの学校」
<http://minna-movie.jp/>



振り返りミーティング

13. ～復興まちづくりのイベント運営体験～

釜石市にある震災伝承施設の「いのちをつなぐ未来館」で、「どのようにして震災や津波について知ってもらうか」を主な課題として取り組んだ。語り部の方の話を伺い、他の震災伝承施設を訪れ、震災や津波被害について、東京においては目をそらしたくなるような内容まできちんと向き合って学ぶことができた。震災の時に何もできなかった自分が、被災地に赴いてそこで実際に起きたことを知ることでせめてものことができたと感じた。被災地で学んだことを、全国各地で起きうる災害のために活かしていきたいと思う。

日程：2019/8/19(月)～9/1(日)

参加学生：1名

活動場所：岩手県釜石市近郊

備考：釜援隊 <http://kamaentai.org/>
釜石市 <http://www.city.kamaishi.iwate.jp/>



伝承者研修後、釜石市長と



震災遺構である旧仙仙沼向洋高校

14. 異才発掘プロジェクトROCKETの子どもたちとの活動から探る新しい学びの形

学校への適応が難しい、いわゆる「発達障害」と呼ばれる子供達も、教室から飛び出した学びの現場においては、その判別が難しいほどに普通の振る舞いをしていた。この点から、学校教育の画一性の困難を改めて見たように思う。型が存在しているからこそ個々の特性が「異常性」として立ち現れてしまう。精神的に不安定さなどのある児童に対して、傾聴と受容は基本ではあるが、優しく受容するだけが支援のあり方ではないことを学んだ。教育において真に相手に価値を提供するとはどういうことなのか、学びを深めていきたい。

日程：2019/8/31(金)、9/12(木)～9/13(金)

参加学生：3名

活動場所：群馬県館林市

備考：異才発掘プロジェクトROCKET <https://rocket.tokyo/>
東京大学先端科学技術研究センター
<https://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/ja/index.html>



参加者に向けて語りかける教授



捕まえたイトトンボを図鑑で調査

15. 日本語教室でのボランティア

日本語教室では、留学生・外国人研究員などを対象に日本語教育、日本文化事情教育、文化交流等を行っている。ボランティアは、主に日本語教育の授業のアシスタントとして活動し、ロールプレイの相手を務めた。また、授業外でも質問に答えたり、食事を一緒にとるなどして、交流を深めた。日本語を話せない外国人の苦勞や、日本語を母語とする自分自身が日本語を説明する難しさも感じた。一方で多文化交流することの楽しさ、意義を感じ、この経験は今後もいろいろな場面で活かせると思った。

日程：2019/9月～2020/1月

参加学生：5名

活動場所：本郷キャンパス 大学院工学系研究科（工学部8号館）

備考：工学系研究科日本語教育部門 <https://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>



教室の様子

16. 外国とつながりを持つ小・中学生対象 日本語・学習支援教室でのボランティア活動

本郷キャンパス近隣の小・中学校では、日本語を母語としない環境で育った等の理由で、日本語での授業等に支障が生じている児童・生徒が増加している。そうした児童・生徒に日本語学習や教科学習を支援する教室で週一回活動を行った。児童が持ち寄る教科の説明を行ったり、問題の解き方を教えるなどが主な活動であった。相手に伝わるまでコミュニケーションをとる重要性を感じ、これからもいろいろな形でこの経験を活かしていきたいと感じた。

日 程：2019/9月-2020/3月

参加学生：2名

活動場所：本郷キャンパス 留学生支援室セミナー室（第二本部棟3階）

17. 日仏の医工学間の国際共同研究（SMMIL-E：癌先端医療技術の連携）を知ろう

「生産技術研究所70周年&CNRS80周年記念セミナー」への出席を皮切りに、生研とフランス国立科学研究センターCNRSの国際共同研究について、また生研内で医工学の研究をされている先生方の研究室を訪問し、それぞれお話を伺った。その中で異なる国の研究者達が協力して研究を行っているのを目の当たりにして、国際共同研究のイメージを掴むことができ、今日では国境を越えて協力することが不可欠であると感じた。加えて、中々お目にかかれない研究者の方々に直接お話を伺うことができ、医工学研究に関する知識が深まった。ここで得た知識は進学後の授業でも活かされている。

日 程：2019/7月-2019/10月、週に1、2日

参加学生：1名

活動場所：LIMMS/CNRS-IIS (Bw402)

東京大学生産技術研究所

備 考：LIMMS

https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/research/department_center/

limms/



金秀炫先生の研究室



松永先生の研究室

18. 学術出版の体験的学習

学術出版を行う東京大学出版会で、実際に本ができるまでの工程を学んだ。企画会議参加、配属された部署の業務、関連会社の見学、著者とのミーティングなど多岐にわたる出版の関連業務を経験した。3週間のプログラムの終盤には、自分の出版企画を立案し、実際に出版会が行っているように企画会議で発表を行い、意見を交換した。本ができあがるまでに多くの工程があり、多くの人が関わっていることを学び、自身の新たな一面を発見したり、将来への展望を改めて考える機会となった。

日 程：2019/8/26(月)-9/13(金)

参加学生：3名

活動場所：一般財団法人東京大学出版会（駒場）

備 考：一般財団法人東京大学出版会 <http://www.utp.or.jp/>

19. ポスト新しい公共の場づくり事業協働体験

神奈川県三浦市において、開所されたばかりの三浦市民交流センターを拠点に、施設活用と市民活動について探求に努めた。まず、三浦市役所市民協働課の仕事に同行し、数珠繋ぎに地元の方々を紹介され市民や地域、行政の業務内容の理解や市民交流センターの活性化に向けた考察を進めた。様々な方向からお話を伺えたことが学生の役割であり、貴重な経験であった。今後は市民交流センターに人を呼ぶ広報補助を行う予定である。

日 程：夏季又は週末

参加学生：2名

活動場所：神奈川県三浦市

備考：三浦市ホームページ

http://www.city.miura.kanagawa.jp/kyoudo/newpublic/newpublic_model.html

神奈川県ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7782/p324976.html>

ミサキファンクラブ <http://misakifc.com/>



活動拠点 市民交流センター



カフェ

20. 未来を指向する地方自治体の活動への参加

三重県玉城町内での各施設を回り、各所での業務を体験させていただいた。玉城町では町民と町職員の距離が近く、町民一人ひとりに寄り添った行政を見ることができた。人と関わって話を聞くことで住民の顔が見える行政になり、また住民一人一人が地域行政を作り上げている意識が出来る光景を間近で見て、今後の学習で政策を考えていく際に大切な視点を身に付けることができた。

日 程：2019/8/13(火) - 8/23(金)

参加学生：1名

活動場所：三重県玉城町

備考：玉城町役場 <https://kizuna.town.tamaki.mie.jp/>

21. 陶板複製名画美術館を体験する

全国有数の企業所有美術館である大塚国際美術館に於いて学芸員体験を行った。一昨年末にはテレビ番組でも大きく放映されるなど非常に注目を集めている同美術館で、陶板を利用した複製絵画製作という独自の意義を学んだのち、新たな商品開発を提案するという試みに挑戦した。実際に課題に取り組むことで営業や来館者への訴求力の難しさを知り、普段見ることのできない“バックヤード”である工夫や苦勞、やりがいについても窺える貴重な機会となった。

日 程：2019/8/21(水) - 8/23(金)

参加学生：10名

活動場所：大塚国際美術館（徳島県鳴門市）

備考：大塚国際美術館 <https://www.o-museum.or.jp/>



スクロヴェーニ礼拝堂



大塚美術館 外観

22. 農家に泊まろう！

～農林業のフロンティア・みなかみで一次産業の可能性を考える～

利根郡みなかみ町で行われている農業体験旅行に参加した。地方では人口衰退の一途が叫ばれる中、みなかみ町には移住者が少なからずおり、農村体験を学校行事に取り入れて全国からみなかみ町へ訪れる学校が増えている。限界集落と呼ばれる町内の藤原地区への滞在、そこでのお祭りやイベントの手伝いを通して、その秘密を探った。

日 程：2019/8/22(木)～9/1(日)

参加学生：2名

活動場所：群馬県利根郡みなかみ町

備 考：一般社団法人みなかみ町体験旅行 <https://www.m-tr.jp>

自伐型林業について～NPO法人自伐型林業推進協会

<https://jibatsukyo.com/about/>

東京大学三四郎会 <https://www.facebook.com/todaisanshiro>



海外からの実習生と



早朝の収穫体験

23. JICAの国内研修現場で国際協力を知る

他大学の学生とともに、各国から来訪している研修員へ行う「課題別研修」に同席することを中心に、日本滞在中の研修員に対する福利厚生企画である「英語狂言」の開催業務補助、都内教員が派遣研修から帰国後の報告研修会に同席し感想を聞いたり、所長や職員と昼食を共にさせていただくなどした。

また、期間中は広報も担当しSNSでの記事執筆・発信を日英二か国語で行った。

日 程：2019/8/30(金)～9/4(水)

参加学生：2名

活動場所：JICA東京国際センター（渋谷区西原）

備 考：JICA東京国際センターホームページ

<https://www.jica.go.jp/tokyo/>

東京大学三四郎会 <https://www.facebook.com/todaisanshiro>



英語狂言



日本の役割を聞き取る

24. 誰も知らない京都を作り出せ！

～東大生しかつけない旅行プラン@KYOTO～

京都府与謝郡与謝野町で若者によって行われている「与謝野Xキャンプ」に混じり、観光協会を起点として数珠繋ぎ式に人を紹介してもらい意見交換を行った。共同生活を行うなかで、朝はラジオ体操に始まり、昼はお話を伺ったり、ちりめんを名産とする同地ならではのシルク機織り体験、地蔵盆見学などをさせていただいた。町長や観光局長など公職に就く方のお話も伺い、「地方」×「観光」×「特産」を核に参加者の人数分の視点も相まって、それぞれの方向から与謝野町について考えを深める機会になった。

日 程：2019/8/19(月)～8/24(土)

参加学生：3名

活動場所：一般社団法人PLACE

京都府与謝郡与謝野町

備 考：一般社団法人PLACE <https://www.place-design.jp/>

<https://www.facebook.com/place.yosano/>

東京大学三四郎会 <https://www.facebook.com/todaisanshiro>

25. 「好き」だけで終わらせない！ ～自らの手でファッションの未来を創ろう～

アパレルの仕事はデザインのみならず流通・営業でも様々な職種がある。他大生と共にアパレルメーカーのワークショップに参加し、それらの仕事について紹介されることで初めて知る職種と役割があり、一購入者としてなかなか見ることができない流通の世界に興味深く飛び込んだ。ワークショップ内では一週目に講義と意見交換、二週目には実地店舗での見学と研修、最後には「アパレル以外の業務拡大提案」についてプレゼンを求められ、アパレル企業の守備拡大戦略についても新たな知見を得ることができた。

日程：2019/9/9(月)～9/13(金)

参加学生：1名

活動場所：東京都内

備考：株式会社オンワード樫山 <https://www.onward.co.jp/>
東京大学三四郎会 <https://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



社内の様子

26. 農作物なんて自由自在？ ～植物工場で次世代の食糧生産を考える～

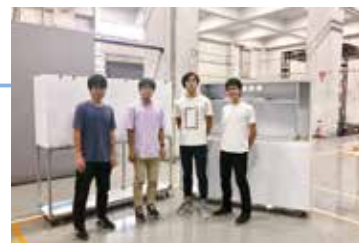
植物を工場で作るとはどのようなことか。農業ひいては収穫は天候や獣害に大きく左右され、とりわけ近年はそれらによる被害が大きくなってきたと言われる。先進的な技術である植物工場を複数見学した。東大、農工大、千葉大、ベンチャー企業、人工照明による栽培のみならず栽培装置そのものが屋内にある状況、葉野菜だけではなく、果樹の人工栽培など、それぞれの植物工場とその取り組みをを実際に現地を見て、その技術を専門としている人の話を伺うことで人工植物栽培の最新について実感を持って理解を深めた。

日程：2019/8/27(火)～9/9(月)

参加学生：4名

活動場所：植物工場研究会（千葉大学環境健康フィールド科学センター）
東京大学生態調和農学機構（附属田無演習林）
株式会社プランテックス（東京都墨田区）

備考：東京大学生態調和農学機構河鱒研究室
<https://park.itsc.u-tokyo.ac.jp/kawabata-lab/>
NPO法人 植物工場研究会 <https://npoplantfactory.org/>
プランテックスHP <http://www.plantx.co.jp>



工場内の様子



ミーティング

27. 測量船による海洋観測実地体験

海上保安庁海洋情報部所属の測量船に一週間乗船し、海洋汚染や放射線調査の為に海水や泥を採取したり、作業に使う機器の仕組みを学んだ。また、操舵室、機関室、通信室などを見学し、船の運航について知識を得た。船内の生活は多くの人と関わるものであり、互いを尊重し、助け合う職場環境にも感銘を受けた。日本を下支えしている海洋環境調査を体験したことで、日本を動かす政府機関は多岐にわたる仕事をしていることを知り、今後の進路、物の見方、考え方にも大に関わってくると思われる体験活動となった。

日程：2019/8/30(金)～9/5(水)

参加学生：3名

活動場所：日本近海

備考：海上保安庁海洋情報部 <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/>



温度計を海面に垂らす



採水作業体験

28. 犯罪被害者支援に関する事業の実施

全国被害者支援ネットワークで、犯罪被害者支援について講義を受けたり、実地研修を行うプログラムに参加した。弁護士による講義では、支援を行う上で重要な考え方や、歴史、他国の取り組みなどを学んだ。都民センターでの研修では様々な役割の方から業務を説明していただいた。また、いくつかの公判を傍聴したり、犯罪被害者支援フォーラムに参加した。活動を通して、法制度を現実として捉えることができた。また、物の見方、考え方、人の意見に耳を傾ける姿勢などが磨かれたように感じた。

日 程：2019/9月-2019/12月

参加学生：1名

活動場所：公益社団法人 全国被害者支援ネットワーク（東京外国語大学本郷サテライト6F）

備考：公益社団法人 全国被害者支援ネットワーク

<https://www.nnvs.org/>

29. 再生可能エネルギー系ベンチャー企業でのインターン

再生可能エネルギー事業を行う企業でのインターンを通し、持続可能な社会の構築について学び、社会人としての知識や素養を身につけることを目的としたプログラムに参加した。活動は東京都内と宮城県で行われた。都内ではデータを調べたり、会議や商談に同席して、実際の業務を学んだ。宮城県では企業が所有するククラゲの栽培と太陽光発電を組み合わせた営農型発電所を見学した。再生エネルギーの事だけでなく、金融や法律など多岐にわたり学ばなければならない事など社会人としての心構えを知ることができた。

日 程：2019/9月2週間程度

参加学生：2名

活動場所：東京都内、宮城県

備考：サステナジー株式会社 <https://sustainergy.co.jp/>

（関連会社）おひさま株式会社 <http://ohisama-corporation.jp/>

30. 地方創生総合戦略を学ぶ！

～自治組織・市・広域自治体協議会の連携で未来を拓く～

地方創生を、広域自治体協議会や自治組織も合わせて考える松江市の取り組みを現地で学んだ。現状を理解することにより、問題の深さや人々の思いを受け止め、改めて地方創生という取り組みについて考察した。何より、今まで縁のなかった松江市との繋がりができたことが実感でき、大きな収穫となった。こうした縁の大切さと共に、今までの自身の取り組み方への反省、人と話すスキルの向上、視野の広がり等多くの事を吸収する機会となった。

日 程：2019/8/16(金)-8/24(土)

参加学生：3名

活動場所：松江市及び中海・宍道湖・大山圏域

備考：松江市 <https://www.city.matsue.shimane.jp>

圏域市長会 <https://www.nakaumi.jp>

31. 今、地方が面白い！

地域に根付く“シゴト”の魅力に触れるローカルスタディツアー

能登に入る前に東京で提案用の企画出しを行ったのち、石川県能登地方の魅力を探るとともに老舗ろうそく店の「和ろうそく」の新たな商品開発について構想を練り提案を行った。様々な店にインタビューを行い、新しい商品開発や販売方法を模索する店舗もあれば、衰退を甘んじて受け入れる商店もあり、地域内でも温度差があることを知る。最終的には石川県庁でプレゼン発表を行い、「能登」という地域の特性のみならず、日本の地方としての現状を間近に見学できたことで、そこに住まう人々へ思いを寄せることができた。

日 程：2019/9/10(火) - 9/13(金)

参加学生：3名

活動場所：石川県能登地域

備考：株式会社御祓川 ウェブサイト <https://notoryugaku.net/>

32. 加賀温泉郷まるごとキャンパス体験

石川県加賀市は全国でも有数の温泉郷、山中温泉・山代温泉・片山津温泉を擁する自治体である。期間中にはそれら三つの温泉地に赴き、それぞれの地元の方からお話を伺ったり、総湯入湯、木挽き、蕎麦打ちなどの体験を行ったり、各地域のガイドについて歩きながら案内を受けるなどした。魅力的なものが多い地域で、更に観光客数を伸ばしたり、地元の人に誇りを持ってもらうための提案を最終日に市役所で行った。できるかぎり実現性も考慮しながら、各地域や職業、役所の視点に立つことは簡単ではなかったが、一観光客では得られない経験で各温泉郷を深く視ることができた。

日 程：2019/8/5(月) - 8/8(木)

参加学生：8名

活動場所：石川県加賀市内

備考：加賀市ホームページ <https://www.city.kaga.ishikawa.jp/>
加賀温泉郷観光情報サイト KAGA旅・まちネット
<http://www.tabimati.net/>
加賀四湯博サイト <https://omotenashi.ladykaga.me/>



ミーティング



町を散策

33. 文化ワークショップを基本とした過疎・高齢地区のまちづくり体験プロジェクト

富良野市で、様々な年代の交流の場としてワークショップを提供している団体に加わって活動を行った。期間中には歓迎として緑色の食べ物を持ち寄る「みどりの食卓」、富良野の自然草を使ったアロマ講座「森の香り」、また野菜の収穫から調理、次期展示会の設営・搬入作業なども体験した。過去の参加学生が提案した企画の実施、多様な年代の人たちが集まるコミュニティの場であるワークショップを通じて地域を理解する方法について実際に触れることができ大きな学びとなった。

日 程：2019/8/30(金) - 9/2(月)

参加学生：4名

活動場所：北海道富良野市

備考：ふらのみらいらぼ
<https://www.facebook.com/630286103789616/>
(一社) 富良野デザイン会議 暮らしステーション
<http://kurashi-s-furano.x0.com/>



みなさんと



調理実習

34. おじゃり申せ種子島！宇宙に最も近いディープな島まるごと体験プログラム（冬編）

日本の50年先の姿を体現しているといわれる種子島を訪れて現地でできない多くの活動を行った。行政の方とのディスカッションや住民の方と交流を通して学んだことから、実際の見聞がそれまで抱いていたイメージと必ずしも一致するものではないことを実感した。ほかにも農業を実際に体験したり、小学生・中学生との交流を通して、新たな気付きを得た。高度な設備をもつ医療機関や種子島宇宙センター等最先端技術をもつ施設も見学し、自分の視野が広がったり、多角的に物事をとらえ、考察することを学んだ。

日 程：2019/1/28(火)-2020/2/6(木)予定

参加学生：6名

活動場所：鹿児島県西之表市（種子島）

備 考：種子島観光協会 <http://tanekan.jp>

西之表市役所 <https://www.city.nishinoomote.lg.jp>

35. 農業・牧場作業体験@北海道

農場、牧場共に、農家さんと同じ時間、同じ農作業を体験し、農業に対する想いや課題など生の声を伺うことができた。こういった部分で困り、解決策にはどのような障壁があり、どこにその解決の糸口が見つかりそうかなど、農業の未来について深く考える契機となった。これまで生きてきた環境とは全く異なる暮らしを体験する中で、動物を相手にする仕事の大変さ、自然と共に生活することで得られる充実感を味わった。北海道の気候を感じ、地域に対する誇りや愛着、文化に触れ、実に濃い時間を過ごすことができた。

日 程：①2019/8/19(月)-8/30(金)

②2019/9/2(月)-9/13(金)

参加学生：7名

活動場所：北海道中川郡美深町

備 考：美深町 <http://www.town.bifuka.hokkaido.jp/>

美深観光協会 <https://www.bifuka-kankou.com/>

松山農場 <http://mf.tarupon.com/>

農事組合法人ミナミランチ <http://minami-ranch-beef.ftw.jp/>



牛の世話



天塩川でのカヌー体験

36. どっぷりディープな農業・漁業体験（DDNG）

農業体験では、牧草の種まきや、キュウリやおくら、なす、スイカ、トマトなどの収穫や、田んぼごとの米の状態の視察や収穫量の見積もりなども行った。天候に全てを左右され、長い時間経たないと成果がわからず、農作物の単価の変動に注意を払い、多額の設備投資が必要で、一方で収穫物と仕事に誇りを持ち、より美味しくより安全に改良を続けていく農家さんの実際の暮らしを新たに学んだ。また、少子高齢化に悩む地方の実情や、そこに住む人々の暮らし方と心境を知ることができ、都会に住んでいては得られないような視点を獲得することができた。

日 程：2019/8/26(月)-9/3(火)

参加学生：4名

活動場所：青森県深浦町

備 考：青森県深浦町 <https://www.town.fukaura.lg.jp/>



リンゴの収穫



お世話になった皆様と

37. 希望学プロジェクト ふくい体験プログラム（池田町）

福井県池田町では、循環型農業や木育といった施策がまちづくりの一端を担っている。こうした取り組みを含め、池田町で登山、食品作り、生ゴミ回収など様々な活動に参加し、普段味わえない地方の暮らしを体感した。事前の予想と違い、町は活気があり、町民のまちづくりに対する参加意識も高いことがわかった。一方で、諸問題の本質には、現地を実際に訪れてみないとわからないことも多々あった。こうした経験から得られる価値観や思考が、人口減少などの解決策を考える上で大切であることを実感した。

日 程：2019/8/20(火)～8/24(土)の内4日間

参加学生：4名

活動場所：福井県池田町

38. 中山間地域を見る・感じる・考える～北海道鷹栖町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう

北海道鷹栖町で、農業・福祉・教育等の取組を体験し、町の魅力を町外の人々にPRする方法を考え、地方創生を学ぶプログラムであった。カヌーなどのアクティビティ、農業体験、学校訪問などの活動や自然の美しさと共に心に残ったのは、町長や役場職員の方々と住民の距離が非常に近いこと、町民のみなさんの温かさであった。地方創生は、必ずしも人口増加や経済成長だけで捉えられるものではないことを実感した。鷹栖町で学び、感じ、考えたことは、自身の将来設計において大いに影響を及ぼすと感じられた7日間であった。

日 程：2019/8/23(金)～8/29(木)

参加学生：4名

活動場所：北海道鷹栖町



鷹栖町風景



田んぼアート（あったかす君他）

39. 都内でも農林作業フィールドワーク体験

①ハスの育種、管理作業体験、②ブドウの収穫、種計測体験・糖度測定、③持続可能な生態系保全に関する農地見学、④農薬散布有・無の水田におけるクモの採集とその比較、⑤スローライン、スーパーショットを用いた枯れ枝落とし作業体験、演習林見学と、都心からほど近い田無で豊富な自然を感じることができた。実際に体験することで、人間が生きていくうえで欠かせない「環境」「農」について新たな視点をもつことができた。国内外で農業や環境をめぐる問題は山積しているが、地球環境を受け継ぐ1人として、今回の体験を活かしたいと実感した。

日 程：2019/8/21(水)、9/13(金)

参加学生：2名

活動場所：東京大学附属生態調和農学機構・田無演習林

備 考：生態調和農学機構

<https://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/index.shtml>



ハスの花托除去作業



ブドウの糖度測定

40. 聖地熊野の歴史文化と自然を体験しつつ、新宮市の文化行政を学ぶ

4日を通して、聖地熊野を歩いて体験し、自然を堪能しながら多くの社寺を訪ねた。また、現地の専門家から歴史、宗教、地理などの説明を受け、熊野の成り立ちを学んだ。熊野と称される地域は広く、多くの世界遺産や重要文化財が存在し、一つ一つの背景に思いを馳せた。夜には新宮市長や市役所の方との交流会に参加し、地方行政や経済などについて話を伺い、世界遺産を擁する地域ならではの良さと同時に課題を知ることができた。地方課題の解決方法を考えるには、まず地域に入り、知ることが必要であることを改めて考えさせられた。

日程：2019/8/26(月)～8/29(木)

参加学生：10名

活動場所：和歌山県新宮市、那智勝浦町、紀伊田辺市



田長谷自然公園散策



神倉神社とゴトビキ岩

41. 漁村地域のフィールド調査・文化体験を通してこれからの地方のあり方を考える

中高生を対象とした、これからの地方のあり方を考えるイベントにTAとして参加した。「地域活性化」と一概にいても、様々な事象が絡まりあい、加太だけでも事業と日常という二面性や、自然や歴史、建築、人、食、宇宙といった数多くの要素を含んでいると感じた。潜在的な魅力がどこにあるのか、そしてそれをどうその地域なりに活かして行くのか、ということの重要性を感じた。人口減少や少子高齢化などに対する対策も大事であるが、その前にいかに今いる人たちが幸せに暮らせるのか、ということが見落とされがちだが非常に重要なことだと感じた。

日程：2019/8/3(土)～8/6(火)

参加学生：3名

活動場所：和歌山県和歌山市 川添研究室加太分室地域ラボ

備考：和歌山市観光協会 <http://www.wakayamakanko.com/>

加太観光協会 <http://www.kada.jp/>

東京大学生産技術研究所川添研究室加太分室

<https://kada-lab.jp/>



講演会の様子



集合写真

42. 「宍道湖」のしじみと水草のフィールド活動をととして水環境改善と生態系保全を考える

美しい風景やしじみなどの水産資源で知られる宍道湖では、環境の悪化や資源の減少により、保全のあり方が問われている。学内での事前学習や現地での講義でこの事実を学び、課題を知った上で、実際宍道湖での調査や漁を行い、実態を把握した。また、研究機関の方、市役所職員、漁師の方などと交流し、現状や将来への展望などを伺うことができた。課題解決策の策定には、現地で学んだことと、学問的知識をバランス良く組み入れる必要があると感じた。この活動に参加して、多くの方との繋がりができたことは貴重な財産となった。

日程：2019/8/7(水)～8/14(水)

参加学生：4名

活動場所：島根県松江市及び宍道湖周辺

備考：宍道湖漁業協同組合 <http://shinjiko.jp>

有限会社日本しじみ研究所 <https://sijimi-lab.jp>

松江市 <https://www.city.matsue.shimane.jp>

山室真澄教授 <https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/people/people001598.html>

宍道湖保全再生協議会研究概要報告書

https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/suisan/shinkou/gyosei_info/shinzhikohozensaiseikyougikai/houkokusyo.html

43. 山羊、豚、牛、馬の世話と乗馬を体験しよう

動物たちに直接触れ合うことができ、飼養の一部を実際に体験できたことで、生産者としての苦労ややりがい、生産に対する思いを感じ取ることができた。畜産農業の生産システムやコスト、現状に加えて、それぞれの動物の特徴や性格を学ぶことができた。家畜に関しては新しい発見と驚きばかりで、家畜動物として生まれてから成長し、私たちの生活を支える食となる過程が具体的に繋がりを持った。今後消費者として食べることの責任を十分に考え、消費の選択が社会や環境へ与える影響を実感し、地球や社会に害のない選択をしたいと強く感じた。

日 程：2019/9/10(火) - 9/12(木)
参加学生：5名
活動場所：東京大学附属牧場
備 考：附属牧場 <http://www.bokujo.a.u-tokyo.ac.jp/>



体重測定への誘導



子山羊との触れ合い

44. 森が社会に貢献する—持続可能な森づくりへの挑戦—

北海道演習林で、森林の管理を現場で実際に行っている技術職員に同行し、業務の流れを見学し体験した。森林の区画内の全ての樹種と木の直径を測定しデータ入力し、森林の区分や水質調査、伐採された木の確認なども行った。スノーモービルに乗りスノーシューを履いての森での作業は初めてで、全てが新鮮だった。森で動物や植物を見られたのが感動的で、普段見落としているものがこんなにあったのかと、都会慣れした感覚がいかに閉じられていたかがわかった。実に貴重な体験で、大きな影響を受けた。

日 程：2020/2/5(水) - 2/19(水)
参加学生：1名
活動場所：東京大学附属演習林北海道演習林
備 考：北海道演習林 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/hokuen/>



計測範囲の測定



スノーモービル体験

45. 伊豆の体験活動 —南伊豆という—地域との連携に学ぶ—

里山環境や里山での営みについて、実際に目で見て体を動かして体感することができた。前半は、獣害で駆除されたイノシシの解体からソーセージ加工まで、基本的な製作作業に全て関わることができた。後半は林業体験で、チェーンソーを用いて丸太から薪を切り出し、薪割りを体験した。更に鰹節工場を見学し、椎茸の菌うちや出荷も経験した。プログラムを通して、日本の昔ながらの生活やそれに根付いた文化や知恵が、今まさに消失しつつあると痛感し、打開策に真剣に向き合った。日常生活でも身近な様々な問題に目を向けるようになった。

日 程：2019/10/26(土) - 10/27(日)、11/9(土) - 11/10(日)
参加学生：6名
活動場所：静岡県南伊豆町近郊
備 考：樹芸研究所 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/jyugei/>



チェーンソーでの薪作り



作業現場にて

46. 北海道の遺跡博物館における学芸員体験と冬のオホーツク文化体験

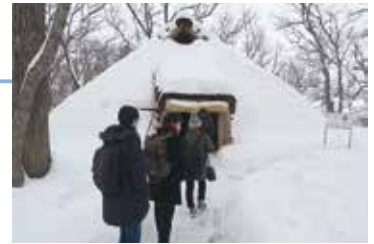
北海道北見市常呂町にある、文学部附属の北海文化研究常呂実習施設で活動が行われた。道東文化、アイヌ文化、北海道の先史文化について教授から講義を受けたあと、「ところ遺跡の森」を始めとして市内・近隣の複数の資料館や博物館（遺跡の館、北海道立北方民族博物館、網走市立郷土博物館、博物館網走監獄、モヨロ貝塚館など）を見学した。聴講や見学で得た知識や情報を元に展示解説を行った。また、夜は自炊をしたり地域の方と食卓を囲むこともあり、現代と今そして北海道と東京の「豊かさ」について考える機会にもなった。

日 程：2020/2/17(月) - 2/20(木)

参加学生：4名

活動場所：大学院人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設
北見市ところ遺跡の森（北海道北見市常呂町栄浦）

備 考：常呂実習施設 <https://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokoro/index.html>
北見市「ところ遺跡の森」
<https://www.city.kitami.lg.jp/docs/7209/>



遺跡跡



勾玉制作

47. 地域イイトコ発見プロジェクト ～フィールドワークから学ぶ地域の健康～

久野地区に10日間滞在し、地元の住民宅の訪問や地区散策、イベントへの参加を通して地域の「イイトコ」を探し分析し、それを基に生活維持の秘訣を探ったり、地域発展の可能性を提言した。久野地区は人口減少・高齢化が著しいが、数少ない若者が地域での新しい取り組みに対し意欲的であり、自治会内での繋がりが強く、そこから新しい動きが出てくるなど、地域を活気づけようというエネルギーが溢れていた。住民間の自立心と支えあいの気持ちと、外からの学びを受け入れる開放性が共存しており、それ故に暮らしやすさを感じていることを学んだ。

日 程：2019/8/24(土) - 9/2(月)

参加学生：5名

活動場所：島根県雲南市

備 考：雲南市 <https://www.city.unnan.shimane.jp/unnan/index.html>



住民宅訪問



毎日の振り返り

48. 被災地福島のアgricultureと環境放射能を知るツアー

東日本大震災から8年になるが、福島では津波や放射線汚染の未だ多くの住民が避難を余儀なくされたり、風評被害をうけるなどの深刻な影響が続いている。体験活動では、飯館村、南相馬市、大熊町、富岡町を訪ね、農家の方と話をしたり、実験施設で先生から講義を受けるなどの活動を行った。事故原因、廃炉が抱える課題、風評被害のメカニズム、政府の対応など活動を通していろいろな事を学んだ。個々の意見を全て取り上げる事は、技術的に難しくても、常に留め置かなければならない大切な心構えだと改めて思った。

日 程：2019/11/9(土) - 11/10(日)

参加学生：2名

活動場所：福島県、農学生命科学研究科



土壌採集

49. 子育て・保育行政を知ろう！ ～金沢市への訪問とフィールドワークを通じて～

保育先進地域でもある石川県金沢市にて「幼保連携型認定こども園」という現在一番新しい制度である、こども園と幼稚園・保育園をそれぞれ視察した。各園の教育制度・意図から園の雰囲気まで異なってくるという点は新しい気づきであった。加えて行政の方のお話を伺い、金沢市の地域行政体としての大きさにも各園の存在が受け入れられている様子を窺うことができた。

日 程：2019/8/2(金)、8/26(月)、9/19(木)～9/20(金)、9/26(木)
参加学生：1名
活動場所：大学院教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター
<http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/>



同行・参加メンバー



ミーティング

50. 演習林の教育研究を支えよう！ ～日本最初の大学演習林で体験する3つの縁の下～

林業について何一つ知らない状態で参加したが、木登り、薪割り、杭作り、歩道整備、木材加工と直々に教えてもらい、ロープを使ったツリークライミングや、伝統的なぶり縄という手法を体験した。ぶり縄は、縄と木の棒でできた物で、縄を幹に巻き付けて摩擦力だけを頼りに梯子の足場のようにして登り、登った後は縄を違う角度に振ることでほどいていくという優れたものだった。歩道整備作業では、「こんな山道にどう階段を作ったのだろう。」という今までの疑問の答えを知ることができた。第一次産業の現場や林業の生産工程について、もっと知りたくなった。

日 程：2019/8/28(水)～8/30(金)
参加学生：1名
活動場所：東京大学附属演習林千葉演習林
備考：千葉演習林 <http://www.ufa.u-tokyo.ac.jp/chiba/>
千葉演習林フェイスブック
<https://www.facebook.com/509050409292447/>



チェーンソー体験



薪割り

51. 中世の時代が輝く島根県益田市 歴史観光プログラム企画開発プロジェクト

島根県益田市は、中世（鎌倉～戦国時代）の史跡や古文書等が残る全国でも稀有な地域であるが、中世の歴史が一般的に著名でない。旅行者にとって魅力的な観光企画開発や地域活性化のプランを作る活動であった。東京大学史料編纂所や現地での事前学習のあと、実際に街歩きを行い、その魅力や改善点などを調査した。より深く街の魅力を知るため、自身でプランを立てて、レンタサイクルや公共交通機関を利用した街歩きを行った。益田市の方との交流も経験し、地域活性化とは何かについて、考えを巡らせた。

日 程：2019/9/8(日)～9/16(月)の内3泊4日
参加学生：3名
活動場所：島根県益田市
備考：益田市ホームページ「文化・歴史・観光」
<https://www.city.masuda.lg.jp/site/kanko/>
益田市ホームページ「歴史文化研究センター」
<https://www.city.masuda.lg.jp/soshiki/182/>
一般社団法人益田市観光協会ホームページ
<https://masudashi.com/>



益田越中守兼堯像



宮ヶ島・衣毘須神社と戸田小浜の漁村

52. 森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験 ～世界の水文研究を支える90年を全身で感じよう～

赤津研究林で90年に渡って行われている気象観測に同行し体験した。実際の観測地点やその方法、正確なデータを取るための工夫、積み重ねられた記録など普段は表に出ることのない“目には見えない部分”によって現在の観測が支えられていることを強く意識した。気象観測は自然と共にあるだけでなく毎日行われなければいけないことであると説明を受けて日々の天気予報に使われているデータも先人から続けられて蓄積されている地道な努力の賜だと感じ、観測データに謝意と敬意を払うきっかけとなった。

日 程：2019/9/10(火)～9/13(金)

参加学生：1名

活動場所：大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所赤津研究林（愛知県瀬戸市北白坂町）

備 考：附属生態水文学研究所 <http://www.ufa.u-tokyo.ac.jp/eri/>



計測作業の一部



皆さんと

【海外プログラム】

01. 中国・海南島の自然保護区管理を知る

海南島各地の自然公園、自然保護区を訪れ、熱帯植物の観察、植物保護の取り組みや資源開発の計画等を実地で学んだ。海南島では開発による自然破壊が進み、その保護の重要性が高まる中で、海南島を一つの自然保護・開発のモデルとして官民が協力していることを知ることができた。自然保護といっても経済的な側面を無視するわけにもいかず、持続可能な開発と、世界にむけてのアピールの重要性も同時に認識した。多様な熱帯植物を、見て、触って、食べて、直接自然の様子を知ることができ、少数民族の文化を知る機会も得て、大きな収穫となった。

日 程：2019/8/5(月)～8/12(月)
参加学生：10名
活動場所：中国 海南島
備 考：海南大学 <http://www.hainu.edu.cn/en1/JPl.htm>
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林
<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>



植物園の訪問



最終日のフェアウェルパーティ

02. 大学・企業・文化体験 in 韓国2019年 —韓国を知る、韓国から日本を見る—

午前中から夜までタイトなスケジュールで、韓国を理解する上で必要な要素が凝縮されており、視野を広げる機会となった。ソウル大生との交流会では、日韓関係が急速に悪化していた時期でもあり、悪化の原因である、歴史認識問題や領土問題について活発な議論が行われ、韓国の同年代が日韓の関係についてどう考えているのか、どのようにして改善していくのが良いのかを肌身で感じた。また、大使館訪問やホームステイは、進路を考える上で大きな転機となり、韓国から日本を見つめる貴重な機会となった。

日 程：2019/8/20(火)～8/28(水)
参加学生：10名
活動場所：大韓民国 ソウル
備 考：在韓東京大学総同門会、ソウル東大会
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/interact/list.html>



MIDAS IT



ソウル大生との討論会

03. シンガポールでビジネスを学んでみよう

卒業生が勤務する会社を19社訪問し、各社の経営内容とともにシンガポールがいかに経済発展したか、海外で働くために今何をすべきか等、様々な話を伺った。一見発展めざましく見えるシンガポールも様々な課題に直面し、外国人労働者とシンガポリアンの軋轢やそれに伴う外資への規制、貧富の差、国土や人口が小さいことにより、そのような問題がすぐ政治に直結してしまうことや、実際に進出している日本企業が、東南アジア市場の情報に精通しきれていないことも初めて知った。人生の選択に、大きな影響を受けた。

日 程：2019/9/7(土)～9/15(日)
参加学生：8名
活動場所：シンガポール
備 考：淡星会 <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/interact/list.html>



Urban Redevelopment Authority



International SOS

04. 医学と平和

カンボジアでは、1970年代の紛争により、大量虐殺が起こり、社会インフラも破壊された。復興途上にあるこの国の現況を、医療制度を中心に直接見聞し、人々と直接話をして学んだ。プノンペンに最新設備の整った大病院がある一方で、郊外には医者はいない診療所しかないなど、社会の格差や医者不足を痛感した。また、NGO等が中心となっていて行っている地雷処理の現場や、虐殺に関する博物館を訪問し、今なお残る戦禍を学んだ。歴史や世界情勢を知り、現代社会を正しく理解する必要性を感じた。

日 程：2019/8/1(木)～8/8(木)
参加学生：5名
活動場所：カンボジア
備 考：東京大学大学院医学系研究科国際地域保健学教室
<http://www.ich.m.u-tokyo.ac.jp/>



UNICEF訪問



地雷処理JMASの方々と

05. インド体験活動

—インド工科大学での日本語授業サポート・インド赤門会との交流—

インドという広大な国に関して、学生との交流や企業との交流を通して、学生からの観点、ビジネスからの観点の2つから知ることができたことは、知的好奇心を刺激される経験だった。現地学生の、何事にも慢心せずに謙虚に生きる姿勢は本当に素晴らしく感銘を受けた。一方、インドは日本以上に学歴社会であり、それによって貧富の差が拡大し、日本もこのまま行けば、同じ状況を迎えると考えられ、インドの街で見た光景は他人事ではないと感じ、危機感を覚えた。

日 程：2020/2/24(月)～3/3(火)
参加学生：7名
活動場所：インド工科大学Kanpurと近郊
備 考：東京大学大学院工学系研究科日本語教育部門
<https://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>
インド工科大学カンプール校 <https://www.iitk.ac.in/>



IITK日本語教室での交流会



小学校訪問

06. TOPS2019 (Tokyo Oxford Programme of Summer2019)

最初の2週間はオクスフォード大学で古典学と法学を学び、ロンドンでの法曹界見学では、日本とはまるで違う制度に触れ非常に興味深かった。3週目はチュートリアルを体験し、課題のエッセイやプレゼンテーションに取り組み、素朴な質問まで投げかけることができた。4週目は、ケンブリッジ大学・エジンバラ大学を訪問し、最終プレゼンテーションを行った。伝統や歴史、自然や芸術を尊重する姿勢に学ぶところが多く、授業からは多くの教養を得た。英語という言葉の壁がやはり高いことを実感したが、真剣に取り組み、かつ今後に繋げようと、そんな1か月を過ごせて幸せであった。

日 程：2019/8/4(日)～9/1(日)
参加学生：10名
活動場所：イギリス オクスフォード大学、他
備 考：オクスフォード大学 クライスト・チャーチ
<https://www.chch.ox.ac.uk/>



授業風景



フェアウェルディナー

07. 英国ロンドン、海外で働くとは

ロンドンを中心に、国際的な企業や機関、日系企業のロンドン支社など東大OBが在勤の10社とオクスフォード大学、ケンブリッジ大学の2大学を訪問した。海外で働く上での壁や試練、得られるチャンスなど、事前に調査した内容などを踏まえ様々な疑問を投げかけることができた。このことから、各自がロンドンや海外で働くことにおける疑問を解消し、実際にイメージが膨らんだだけでなく、今後のモチベーションにつながる貴重な体験となった。また、英語力だけでなく、コミュニケーション能力や交渉力、精神的な強さなどが必要であるということを改めて認識した。

日程：2020/2/24(月) - 2/28(金)

参加学生：11名

活動場所：イギリス ロンドンおよび近郊

備考：英国赤門学友会

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/interact/list.html>



英国赤門学友会総会にて



民泊先での最終日

08. ミュンヘン工科大学 (TUM) での国際交流体験 —日本語授業サポートおよびワークショップ—

活動の内容は主に、TUMの大学生との交流、現地で活躍する日本人との交流、日本企業訪問の3つであった。日本人との交流では、留学することの意義、ドイツでのインターン体験、ドイツと日本の労働環境の違いといった貴重な話を伺うことができた。日本語教室への参加や来春日本へ留学する大学生との交流では、身近な話題から、香港情勢や日韓関係、ドイツの過去についての政治的な話題まで多岐にわたり、特に日本人同士ではあまり話さない政治的・歴史的なテーマについて海外の人の視点を学べたことは大きな収穫だった。

日程：2019/9/11(水) - 9/18(水)

参加学生：8名

活動場所：ドイツ ミュンヘン、TUM本部キャンパス

備考：東京大学大学院工学系研究科日本語教育部門

<https://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>

ミュンヘン工科大学 (Technische Universität München)

<https://www.tum.de/nc/en/homepage/>

TUM言語センター (日本語コース)

<https://www.sprachenzentrum.tum.de/en/languages/japanese/>



ホームステイ先での集合写真



教会から見たミュンヘン市庁舎

09. サウジアラビア プリンセス・ヌーラ大学 国際交流体験活動

プリンセス・ヌーラ大学に1週間滞在し、基礎アラビア語の学習と現地学生間での文化交流、そしてリヤド市内の視察を通じた異文化体験を行った。市内の視察では歴史的建造物であるマスモック城や図書館を訪問し、歴史や市政、今のサウジアラビアにおける女性の自立と、社会的地位の獲得を目標とした教育活動の取り組みについて伺った。イスラム教の慣習が厳しい国とのイメージを抱いていたが、現地女性の社会進出など、現在まさに発展している様々な側面を知ることができたのは、新鮮な発見であったと共に非常に貴重な経験であった。

日程：2020/2/21(金) - 2/29(土)

参加学生：5名

活動場所：サウジアラビア リアド

備考：プリンセス・ヌーラ大学

<https://www.pnu.edu.sa/en/Pages/Home.aspx>

太陽光寄付講座 (GS+I) <http://www.gsi.u-tokyo.ac.jp/>



アラビア語授業でのサラダ作り



Riyadh Season Boulevard

10. アラブ首長国連邦の「いま」

世界の金融の中心となり、再生可能エネルギーへの転換をすすめることで、石油依存から脱却を図るアラブ首長国連邦の「いま」を体感することを目的とし、大学、日本企業、国際機関、文化遺産などを訪問した。現地の方々、大学生、現地で働く日本人等多くの方と交流し、首長制やイスラム文化などについても知識を得た。現地では日本のアニメが広く知られていることなど驚きも多く、この国について知らないことが多いことに気づかされた。固定観念を払拭したり、他者との関わり大切さに気づくなど観光旅行では得られない経験となった。

日 程：2019/9/6(金) - 9/14(土)

参加学生：6名

活動場所：アラブ首長国連邦・アブダビ首長国（マスカール市、アブダビ市、アルアイン市）、ドバイ首長国（ドバイ市）

備 考：東京大学工学系研究科電気系工学専攻

<https://www.ee.t.u-tokyo.ac.jp/~nakano/lab/>

東京大学大学院新領域創成科学研究科国際協力学専攻 <http://inter.k.u-tokyo.ac.jp/>

KUST <https://www.ku.ac.ae/>

IRENA <https://www.irena.org/>



IRENA(国際再生可能エネルギー機関) 訪問



アブダビ グランドモスクにて

11. ハーバード大学医学部研究室の訪問・ディスカッション

ハーバードメディカルスクールとマサチューセッツ総合病院を始めとする関連病院や関係研究機関で医学・薬学・生物系に勤務や研究をされている、東京大学出身者の方々を中心に訪問して、アメリカでの研究生活、各者の研究内容やキャリアについてお話を伺った。米国では手厚い大学院教育とサポートがあるとともに研究を行う上での国際協力、共同意識、壁を作らないなど人的なことが必要不可欠であるなど、日米の教育・研究システムの比較を通して、日本の研究状況も相対的に見つめることができた経験となった。

日 程：2019/8/16(金) - 8/26(木)

参加学生：6名

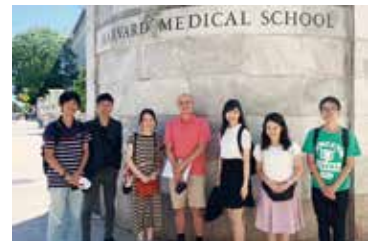
活動場所：アメリカ ボストン

備 考：ハーバード大学医学部

<https://hms.harvard.edu>



夕食風景



ハーバード大学医学部前にて

12. GTL Summer Intern for Systems Method Experience at MIT

MITにおいて夏季集中開講されるSDM(システムデザインマネジメント)コースの授業内での助手を務めた。実際のMITの講義をいくつか聴講する機会にも恵まれたことも大きな収穫の一つだったが、年齢も国籍も異なる受講生たちから人生について学ぶところが多く、人生で大事なことを「勉強」に掲げていたが、それに「学ぶ動機」、「学びから生まれる創造」、「人との繋がり」が加えることができたことは大きな体験であった。

日 程：2019/8/19(月) - 8/30(金)

参加学生：1名

活動場所：柏キャンパス、アメリカ ケンブリッジ

備 考：GLOBAL TEAMWORK LAB <https://gtl.k.u-tokyo.ac.jp/>

<https://gtl.mit.edu/>



受講メンバーと一緒に



活動の様子

13. アメリカで仕事をする事の素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通じて多角的に探ろう

シカゴ・ワシントンDCの二都市で、大使館・領事館などの日本の機関、米国に進出している日本企業、米国企業、IMFや世界銀行などの国際機関や研究機関を訪問し、米国で働く意義やキャリア形成、米国や日本についての見解など、様々な貴重な話を伺った。人生は予想以上に流動的で、組織や人に頼るのではなく、自分が目指す方向性を自分で考え、行動し続けることが重要なのだと感じた。同時に、いま目の前のことに集中し、そして楽しむこと、長い目で自分の人生を考えることも重要で、この二つの生き方を常に肝に銘じて生きていきたいと思う。

日程：2019/8/7(水) - 8/13(火)

参加学生：10名

活動場所：アメリカ シカゴ市、ワシントンDC周辺

備考：シカゴ赤門会・さつき会アメリカ

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/alumni/interact/list.html>



世界銀行



在米日本大使館

14. コロンビア大学所属東大卒業生の教授、研究者、学生を訪問・ディスカッション

コロンビア大学に所属する教授、研究者、大学院生およびニューヨークで活躍されている東大卒業生を訪問し、質疑応答やディスカッションを行った。大学での所属は、歴史、公共政策、建築、社会基盤、医学、経営と多岐に渡り、アメリカでの研究・教育や、留学に対する考え方、日米の文化・社会の違いなど深く理解することができた。日本を飛び出し留学し、アメリカで生活することを決めたことはリスクを伴う決断であるが、そこに挑戦し、その姿勢は尊敬に値するものであった。このリスクをとる選択は、今までにはない考え方で新しい発見であった。

日程：2020/2/24(月) - 2/28(金)

参加学生：10名

活動場所：アメリカ ニューヨーク州

備考：コロンビア大学 <https://www.columbia.edu>



Irving Institute for Clinical and Translational Research



コロンビア大学生との交流

15. ニューイングランド有機農場での Community Supported Agriculture 体験 (米国)

基本的に有機農場やCSAは薄利で人手が常に足りない状況で、土壌の質が非常に良いのに加え、農薬を使用しないため、雑草の成長が早く、人手を増やす工夫や雑草刈りの機械開発など、改善の余地はまだあると感じた。地球温暖化で昆虫が大量に減り、農場では30%も減少したため受粉率が低下し、収穫量も減ってしまうという問題点も学んだ。一方で、朝は日の出前に鶏の鳴き声で目覚めて朝焼けを見て、昼は体を目いっぱい動かし、夜は日が沈んで星が見え始める頃に虫の鳴き声の中で眠る生活で、時計ではなく太陽の動きに従って生きる生活を堪能した。

日程：2019/8/17(土) - 8/31(土)

参加学生：4名

活動場所：アメリカ コネチカット州

備考：NY銀杏会 <https://www.ny-ichokai.org/>

The Hickories <https://www.thehickories.org/>



収穫時の様子



農場での最終日

16. オーガニック農場での Sustainable agriculture 体験（米国）

農場での生活は、毎朝6時に起床し朝食後は7時過ぎから6時間農作業を行い、13時過ぎに昼食、自由時間、夕食後は片付けをして鶏小屋を締めるという流れで進んだ。農作業では、鶏の餌やりから野菜の収穫、雑草抜き、マーケットの準備、ヤギの爪切りなど様々な作業を行った。農場でのホームステイでは、農場夫妻や地域の方、下宿人など多くの方との共同生活的な体験を通して、異文化、国際交流の楽しさに日々心を躍らせた。毎日幸せを感じながらの今回の経験は、この先もずっと忘れることのない、かけがえのないものになった。

日 程：2019/8/3(土) - 8/17(土)、

8/17(土) - 8/31(土)、

8/31(土) - 9/14(土)

参加学生：8名

活動場所：アメリカ ニュージャージー州

備考：NY銀杏会 <https://www.ny-ichokai.org/>
Orchard Farm Organics <https://orchardfarmorganics.org/>



鶏小屋



マーケットのトマト

17. 米国ソルトレイクシティおよび近郊における 国際交流・研究体験活動

前半はカリフォルニア大学バークレー校の見学を行い、後半はユタ大学で大規模な授業や日本人教授の英語での講義を聴講した。デルタ市内では、かつて第二次世界大戦中に日系人収容所があった町“トパーズ”、東京大学宇宙線研究所が主導する宇宙線観測施設を訪れた。観光などでは中々訪れることができない中西部、また施設で満天の星空を見た経験は何物にも代えがたい体験となった。

日 程：2019/8/18(日) - 8/26(月)

参加学生：10名

活動場所：米国ソルトレイクシティおよびデルタ市

備考：ユタ大学のWEBサイト <https://www.utah.edu/>

テレスコープアレイ実験のWEBサイト

(日 本) <http://www-ta.icrr.u-tokyo.ac.jp/>

(ユタ大学) <http://www.telescopearray.org/>

デルタ市の博物館

Great Basin Museum <https://greatbasinmuseum.com/>

Topaz Museum <https://www.topazmuseum.org/>



実験の様子



先生と参加メンバー

【研究室プログラム】

01. 再生医療の研究開発に触れる

近年様々な研究が進められている再生医療の研究開発現場を見学し、実際に研究で使われている器具やヌードマウスを使って、細胞培養、再生組織作成、生体移植、評価といった一連の作業を行った。細胞や実験動物の扱い、縫合、パラフィン切片作成など、ほぼ初めて行う作業の練習もできた。実験を進めていった過程で、研究はほぼ臨床に応用されるものであり、そのことを常に念頭に置いて、プロトコルを定めるべきであるということも感じた。

日 程：2019/9/13(金)-2020/1/17(金)
参加学生：1名
活動場所：東大病院分子ライフイノベーション棟
備考：東京大学大学院医学系研究科
セル&ティッシュ・エンジニアリング寄付講座
<http://square.umin.ac.jp/ct-e/t-e/index.html>



移植前 移植片



移植後 移植片

02. 「医の知」に触れる—手術とは何か？ 体内臓器を探ってみましょう！

食道と小腸をつなぐ再建、乳がん患者の乳房全摘出、内視鏡を使った胃瘻造設、甲状腺がん、胃の腫瘍摘出の手術を見学した。初めて間近で見る手術は衝撃的で圧倒され、手術室の独特の空気感や雰囲気を感じることができた。緊張感の中、集中力を切らさず細かい作業をし続けなければならない精神的な大変さもかなり大きなものであるに違いなく、医療現場に携わる方々の働き方が見直され、それを技術的に支援する方法をさらに模索するべきであると強く感じた。

日 程：2019/8/27(火)-8/29(木)
参加学生：7名
活動場所：本郷キャンパス 医学部附属病院
備考：東京大学医学部附属病院 胃・食道外科
<https://www.h.u-tokyo.ac.jp/patient/depts/shokudou>



研修医や執刀医の先生と



3日間お世話になった先生と

03. 先端的光イメージング技術を用いた 脳科学・神経科学研究体験

先生が開発した世界最先端の技術を基に、各タンパク質に蛍光染色等を施して蛍光イメージングさせてデータを取り、それらの挙動に関して解析を行った。データが示す結果には様々な示唆があり、その検討作業の中でタンパク質の探求の奥深さに触れることができた。また、プログラミングによるデータ分析の幅が広がりや顕微鏡改造の世界にも触れたことで、幅広く様々なことを実際に体験してみることが大事であるとの心を新たにした。

日 程：2019/8/19(月)-8/30(金)
参加学生：4名
活動場所：本郷キャンパス 医学部教育研究棟
備考：大学院 医学系研究科 細胞分子薬理学分野
<http://www.pharmacol.m.u-tokyo.ac.jp/>



発表の様子



先生と参加メンバー

04. 生体分子から動物個体まで～生物化学の研究体験

眞田研、飯野研、濡木研、上村研においてそれぞれの活動を行った。タンパク質の結晶構造解析など書籍等で知った内容を実際に初めて観察したり、自らの手による実験を通して感動を覚えた。それと同時に、周辺背景や手技に集中して実験を遂行することや、好奇心と知識を糧に条件を少しずつ変えて粘り強く試行錯誤することの大切さを学んだ。実際の生きている生物で実験を行うこと、目で見るだけでなく画像解析ソフトを使用すること、考えながら操作することは面白く、今後の研究に於いて有意義な経験となった。

日 程：2019/8/21(水)～9/19(木)、各自定められた日程

参加学生：7名

活動場所：本郷キャンパス 理学部3号館、1号館、7号館のいずれか

備考：東京大学理学部生物化学科

<http://www.bs.s.u-tokyo.ac.jp/biochem/>



ハエ仕分け

05. 農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定

2011年3月の原発事故以来、農産物や農地の放射性物質情報を目にする機会が多いが、測定方法が広く周知されているとは言えない。この体験活動では、汚染の実態を学ぶ事を目的とし、実際に測定を行った。まず放射線についての講義を聞き、知識を得た上で、サンプル測定を担当している施設で、福島県で採取された枝を使って放射性物質モニタリング調査を行った。現状でも放射線による汚染が残っていることが確認された。専門家による正しい知識を得て、学ぶことの大切さを痛感した活動であった。

日 程：2019/7月下旬～10月末の1日

参加学生：1名

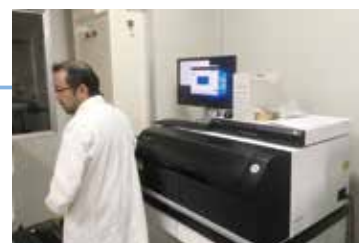
活動場所：本郷キャンパス 農学部2号館

備考：大学院農学生命科学研究科 アイソトープ農学教育研究施設

農学部の活動についての本

<https://www.nhk-book.co.jp/shop/main.jsp?trxID=C5010101&webCode=00912082013>

農学部の復興支援：<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/rpjt/index.html>



研究室



サンプルと測定器械

06. 脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い

教育学部教育学研究科身体教育学コースの各研究室では、様々なアプローチでヒトの身体、心、脳の仕組みについての研究が進められている。参加学生は、興味のあるテーマを研究している研究室で、実際に現場を体感した。実験、文献調査、データ解析、議論、発表準備など、研究室で行われている活動に参加し、その手法を学ぶことにより、未知の分野に視野を広げる機会となった。自身の進路を考える上でも貴重な経験となった。

日 程：各自定められた日程

参加学生：3名

活動場所：本郷キャンパス 教育学部棟

備考：東京大学大学院教育学研究科 身体教育学コース

<https://www.pharmacol.u-tokyo.ac.jp/~tkweb/>

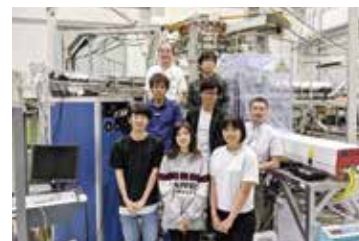
07. 宇宙とラボをつなぐプラズマ物理

多様体についての理論の概要と、ECHエネルギー吸収効率について、IGORを使ってグラフを作成し、カーブフィッティングなどの機能を使って解析を行ったり、高速カメラでコイル内部を撮影し密度変化を調べる実験でPythonを使って画像処理を体験し、短期間の中でも、科学実験における探究の精神を直に感じた。証明の過程で結論に辿り着くためには科学には理論的かつ柔軟、客観的な思考が必要であるということを、抽象論としてではなく体験として初めて実感できた。

日 程：2019/8/26(月)–9/6(金)、各自定められた5日間
参加学生：3名
活動場所：柏キャンパス 新領域基盤科学実験棟
備 考：大学院新領域創成科学研究科
基盤科学研究系先端エネルギー工学専攻
プラズマ理工学研究室 <http://www.ppl.k.u-tokyo.ac.jp/>



活動の様子



先生と参加メンバー

08. イオン液体の実験を通して学ぶ化学研究体験

比較的新しい分野である「イオン液体」を通して、化学全体の視野が広がった。イミダゾリウム系イオン液体を合成し、同定と特性の評価を行い、溶媒として反応からイオン液体の性質を理解した。また、計算化学モデリングを行い、得られた仮想的なスペクトルと実測データを比較したことで、化学研究における計算機器の有効な使用の重要性を理解した。初めて扱う器具や実験も臆さずに挑戦したことで、紙上の知識が経験へと変化した。また、研究室の方々からは新規のものを追い求める姿勢を学ぶことができた。

日 程：2019/8/27(火)–8/30(金)
参加学生：2名
活動場所：柏キャンパス 新領域基盤棟
備 考：大学院新領域創成科学研究科 複雑理工学専攻 複雑物質化学
佐々木研究室 <http://sas.k.u-tokyo.ac.jp/>

09. 生命科学分野の研究領域の可視化ツール入門

生命科学分野でどのような研究が行われているかを、引用文献情報、引用規模、引用関係などをツールを使って視覚化した。生命科学分野では、大学での研究活動成果に基づいて、医薬・診断薬などが生み出されている。その多くは「研究論文」として発表されるが、近年研究成果は論文と特許がほぼ同時に処理されるようになってきている。膨大な情報を可視化することで、実際に論文を執筆する際の先行文献を探すことに非常に有益であることを学んだ。また、得られた情報から、自身の関心分野への取り組み方を考えた。

日 程：2019/11月–12月
参加学生：2名
活動場所：白金台キャンパス 医科学研究所2号館
備 考：大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻バイオイノベーション政策分野
<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/bioipcouse/learning/index.html#taiken>

10. サイバーセキュリティの最前線に触れてみよう！

IoT機器内で作動している内容も意外と簡易な要素から構成されていることが多く、参加する以前はセキュリティについて殆ど分からなかった参加者も多かったが、一日でソースコードの盲点を突いてハッキングをすることが可能であった。その脆弱性に恐怖感を覚えたことは忘れられない。後半では大手IT企業の第一線で対応されている方にセキュリティの最前線のお話を伺った。まず対象物の仕組みを理解してから利用（使用）することがセキュリティ保護について何よりも不可欠であることがわかった。

日 程：2019/9/2(月) - 9/5(木)

参加学生：18名

活動場所：東京都内

備 考：一般社団法人重要生活機器連携セキュリティ協議会

<https://www.ccds.or.jp/>

11. みんなで翻刻ソソ

「デジタル考古学」について案内をうけたのち、翻刻の自学システムと講師からの解説を受けながら変体仮名やくずし字に触れた。現代の生活の中では中々見ることのない仮名遣いの中にも共通性や法則を見出して読み解くことは興味深く、当時の人々の心境まで考えを巡らせた。先生方の手助けも得て、過去の古文書資料に当たることで地震周期を知り、それを予知に役立てるといふ最新の研究に触れることもできた。



活動の様子

日 程：2019/9/2(月) - 9/4(水)

参加学生：4名

活動場所：弥生キャンパス 地震研究所

備 考：みんなで翻刻 <https://honkoku.org/>

12. 光学・量エ系研究室短期体験

普段入る機会の少ない光学分野の最先端の研究室で、どのような実験を行っているかを学んだ。実際に自分で実験やデータ収集のサポートを行うこともあった。また、大学院生の学会発表の練習を見学し、発表の仕方について学んだ。そうした体験を通じて、研究に携わる上では、予想外の事態に対する解決策は自身で見つけないといけないこと、データを自分自身の力で分析することが必要であることを学んだ。具体的な研究のみならず、研究に対する態度を学んだことは自身の将来に役立つものであると感じた。

日 程：2019/9/2(月) - 9/13(金)

参加学生：1名

活動場所：駒場Ⅱ リサーチキャンパス生産技術研究所

光物質ナノ科学研究センター 志村研究室

備 考：東京大学生産技術研究所 志村研究室

<http://qopt.iis.u-tokyo.ac.jp/pub/index.html>

13. 水循環・水資源研究短期体験

東京都の水収支に関するデータの集積と解析を100年分を行った。これを学会発表できるレベルにまで昇華させていくことを目的として、引き続き活動が続けていく予定である。活動を通して、研究の進め方、特に期日を念頭において進めていくことの重要性を痛感した。また、発表を意識することにより、自身があいまいにとらえていたことや、誤解していた部分がはっきりわかるなど、研究活動についての認識を深めることができた。

日 程：2019/7月-2020/3月

参加学生：1名

活動場所：駒場Ⅱ生産技術研究所 本郷第2本部棟

備考：東京大学生産技術研究所 沖研究室

<http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/indexJ.html>

14. DO-IT (Diversity, Opportunities, Internetworking and Technology) Japan 2019 夏季プログラム

このプログラムに参加する、障害のある中高生参加者＝スカラーの一週間の東京滞在体験をチューター/アシスタントとして手伝った。スカラー（参加者）自身が自らの意思で組み立てる、宿泊施設から先端科学技術研究センターまでの道中の移動を補助したり、大学生の先輩として一緒に話をしたりして交流を行った。また、このプログラムの主目的である日常生活や学校での主体的・合理的なICT利用について一緒に学び、その発展性と可能性を感じるとともに、主体的に行動するスカラーに接することで往來の「障害のある中高生」に対して持っていた意識が覆された体験となった。

日 程：2019/8/4(日)-8/8(木)

参加学生：2名

活動場所：東京大学先端科学技術研究センター、マイクロソフト株式会社・品川本社

備考：DO-IT Japan <https://doit-japan.org/>

15. 知能移動ロボットの行動と制御

ロボットにプログラムを施し正確に行動制御させることは想像以上に難しく、試行錯誤の繰り返しであった。研究室の方々に手伝ってもらい、プログラム実装の中で見えてくることを少しずつ広げるように、時には何時間も集中して試作を続けた。実際の知能ロボットにプログラムを実装させながら、読みやすく間違いに気づきやすい記述を工夫することについて知識を得ることができた。

日 程：2019/9/2(月)-9/6(金)

参加学生：2名

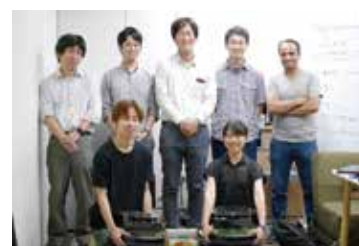
活動場所：本郷キャンパス 人工物工学研究センター

備考：東京大学人工物工学研究センター 移動ロボティクス研究室

<http://www.race.u-tokyo.ac.jp/otalab/index-j.htm>



活動の様子



先生と参加メンバー

16. 微生物を用いたバイオテクノロジー体験

微生物は多種多様な優れた機能を有し、発酵食品、医薬、農薬などに広く実用化されており、また異種生物の遺伝子を微生物に導入した新規化合物の開発なども行われている。活動では、大腸菌とコリネバクテリウムを培養し、4つの実験を行って自身で微生物の遺伝子操作やものづくりの重要性を確かめた。生物を使った実験は予想外の結果になることがあり、その要因を先生方と議論した。今まで体験したことのない本格的な実験を行うことができ、基礎研究の本質や大切さ、楽しさを知ることができた。

日 程：2019/9/2(月)～9/6(金)

参加学生：2名

活動場所：弥生キャンパス 生物生産工学研究センター

備 考：微生物膜輸送工学（発酵研究所）寄付研究部門

<https://park.itc.u-tokyo.ac.jp/mmte/index.html>

Ⅲ 体験活動プログラム活動報告会

2020年2月10日（月）、本郷キャンパス山上会館2階大会議室にて、体験活動プログラム報告会を開催した。プログラムに参加した学生、学生を受け入れた学外関係者及び本学教職員等約90名が出席した。

学生スタッフ2名の進行で開会した。まず五神真総長より、体験活動は「多様性の尊重」や「自己を相対化する視野」を養う良い機会であること、および参加学生が体験活動によって得た新たな価値観や人生の目的に対し、学生に様々な活動の機会を与えてくださった受入関係者への謝辞が述べられた。



司会担当の学生スタッフ



五神総長の挨拶

続いて、体験活動プログラムの発展に顕著な功績のあった団体に感謝の意を表し功績をたたえる「特別功労賞」授与が行われ、受賞の英国赤門学友会様、The Hickories様、一般社団法人 富良野デザイン会議 暮らしステーション様へ記念楯が贈られた。



特別功労賞授与の様子



特別功労賞受賞の様子

参加学生による活動報告の前に、本学教育学研究科の石井悠紀子が釜石市の体験活動プログラムに同行し、観察やインタビューから考察した体験活動プログラムの効果・評価を報告した。



教育学研究科 石井悠紀子



会場の様子

続いて、5つのプログラム（「アメリカで仕事をする事の素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう」、「困難を抱えることも達の自然体験活動をサポート！～海で・山で・川で～（福岡・筑前）」、「米国ソルトレイク市および近郊における国際交流・研究体験活動」、「中山間地域を見る・感じる・考える～北海道鷹栖町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう」、「ニューイングランド有機農場でのCommunity Supported Agriculture 体験（米国）」）に参加した学生が、体験活動から学んだことや将来に活かしたい経験等について報告した。

学生の報告終了後、プログラム関係者からコメントをいただいた。「シカゴ・ワシントンDC」ではToyota Technological Institute at Chicago (TTIC) の古井貞熙氏、「自然体験活動をサポート！」では国立夜須高原青少年自然の家 池田孝一氏、「米国ソルトレイク市」では宇宙線研究所の佐川広行教授、「中山間地域を見る・感じる・考える」では、鷹栖町産業振興課の松木氏、「ニューイングランド有機農場」では、NY銀杏会の廣川謙一氏が学生を受け入れた感想などをお話しされた。



「シカゴ・ワシントンDC」



Toyota Technological Institute at Chicago (TTIC) 理事長 古井貞熙氏



「自然体験活動をサポート！」



「米国ソルトレイク市」



宇宙線研究所 佐川広行教授



「中山間地域を見る・感じる・考える」



「ニューイングランド有機農場」



NY銀杏会 廣川謙一氏

最後に松木則夫理事・副学長より、体験活動プログラムの特徴である参加学生の変化、成長、困難への対応を客観的に評価する取組についての説明と、受入関係者への感謝の言葉が改めて述べられた。

報告会後の懇談会は、学内外の関係者が活動を振り返り、意見交換をする有意義な交流会となった。今年度の報告会及び懇談会を実施するにあたり、約15名の学生が当日の司会、受付及び会場案内などの役割を担い主体的に運営に参画したことは、本プログラムにおける成果の一つとなった。



松木則夫理事・副学長の挨拶



運営に携わった学生スタッフ

2019年度体験活動プログラム報告会

日時：2020年2月10日（月）

15：00～

場所：山上会館2階大会議室
（本郷キャンパス）

式 次 第

一．開 会

一．総長挨拶

【五神 真 総長】

一．特別功労賞授与

一．プログラム概要と効果 【石井 悠紀子 教育学研究科修士課程2年】

一．活動報告

◆アメリカで仕事をする事の素晴らしさとチャレンジを、アメリカのハートランドであるシカゴと国際都市ワシントン訪問を通して多角的に探ろう

◆困難を抱えるこども達の自然体験活動をサポート！～海で・山で・川で～
（福岡・筑前）

◆米国ソルトレイク市および近郊における国際交流・研究体験活動

◆中山間地域を見る・感じる・考える～北海道鷹栖町で、今後の中山間地域・地方創生について考えよう

◆ニューイングランド有機農場での Community Supported Agriculture 体験
（米国）

一．理事挨拶

【松木 則夫 理事・副学長】

一．閉 会

Hands-on Activities 2019

Debriefing Meeting

Date: (Mon) 10 Feb 2020, 15:00～

Place: Main Conference Room, 2F,

Sanjo Conference Hall (Hongo Campus)

Opening

Message from the President

【Makoto Gonokami, President】

UTokyo Award for Distinguished Contribution to the Hands-on Activities 2019

Summary and Evaluation 【Yukiko Ishii, 2_{nd} Year, Graduate School of Education】

Presentations

- ◆ Explore the wonders and challenge of working in America from various angles by visiting Chicago in the heartland of the United States and the international city of Washington DC
- ◆ Supporting nature activities for children with difficulties!
-at the sea, mountain and river-
- ◆ Experience first-hand international exchanges and research in and around Salt Lake City, USA
- ◆ See, feel, and contemplate about the central mountainous area - experience and consider regional revitalization in Takasu Town, Hokkaido
- ◆ Experience Community Supported Agriculture on a New England Organic Farm (USA)

Message from the Vice President

【Norio Matsuki, Executive Vice President】

Close

体験活動プログラム

Hands-on Activities

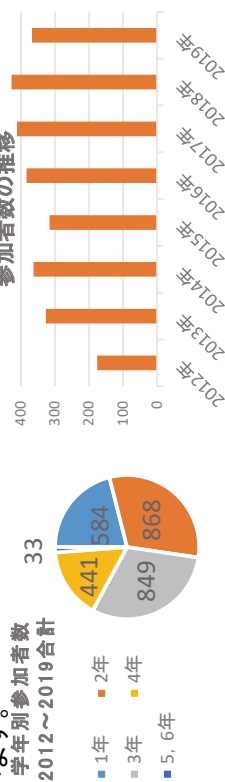


非公認キャラクター
もりかも

体験活動プログラムとは

東京大学の学部学生が、今までの生活と異なる文化・価値観に触れるプログラムです。新しい考え方や生活様式を学び、「知のプロフェッショナル」に必要な基礎力である、自ら新しいアイデアや発想力を生み出す力を身に付けます。

東京大学独自のプログラムとして平成24年度から国内外問わず実施され、ボランティアなど社会貢献活動、国際交流、農林水産業・自然体験や地域体験、学内研究室体験など、多様なプログラムで構成されています。



体験活動プログラムの効果 ※2019年度

体験活動プログラムに参加する効果を、プログラム終了後に参加学生が提出する活動報告書に加え、東京大学教育学研究科教育心理学コースの大学院学生が行う質問紙調査による心理学的な成果測定、プログラムに調査者が参加・同行する参与観察、さらに面接調査により検証しています。

質問紙調査による効果

活動後パーソナリティにおける「外向性」と情動知性における「感情やストレスのコントロール」が向上し、特に後者は昨年度には見られなかった変化であり学生の社会情緒的側面への影響が明らかになった。

参与観察

加賀温泉郷まるごとキャンパス体験プログラム参加学生の変化を活動観察やインタビューから考察。
⇒自身のより深い興味関心を追求していく手がかりとなり進路選択にも影響を与えたようである。



インターンシップ(アメリカ)



国際交流(アメリカ)



有機農場ボランティア(アメリカ)



研究室体験(本郷キャンパス)



地域体験(北海道)



医療体験(東大附属病院)

参加学生の感想

自分が出版したい書籍の企画をまとめ編集者にプレゼンを行った。自分が大学で興味を持っていた課題について、出版後の反響を想像し心躍らせながら企画を進めることができた。編集者の方が真剣に企画に向き合ってくれ充実した3週間となった。(学術出版) 豊かな自然に囲まれて生活できたこと。朝は日の出前に鶏の鳴き声で目覚めて朝焼けを見て、昼は体をいっぱい動かして、夜は日が沈んで星が見え始める頃に虫の鳴き声の中で寝る生活だった。時計ではなく太陽の動きに従って生きている感じがすごく良かった。(ニューイングランド有機農場)



参加学生が活動について発表する報告会は、参加学生有志が司会や誘導を務めます。



本プログラムは学生受入先の学内外関係者のご協力で成立しています。

東京大学本部学生支援課 体験活動推進チーム
taikenkatsudou.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html>





MORIKAMO
Unofficial mascot

Hands-on Activities



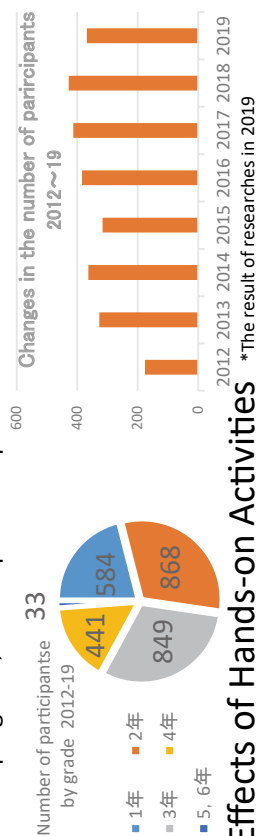
東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

体験活動プログラム

What is "Hands-on Activities"?

The Hands-on Activities offer Utokyo undergraduate students chances to learn about new cultures and sets of values. Through the activities, students discover new ways of thinking and lifestyles, and acquire the skills to make new ideas by themselves, a requirement to be a "knowledge professionals."

The Hands-on Activities, one of original programs in Utokyo, started in 2012 and takes place in Japan as well as abroad, and consists of various programs such as volunteer work, international experience, agricultural sciences and nature programs, on-campus lab experiences and so on.



Effects of Hands-on Activities

We are researching into the impacts the Hands-on Activities has on the students using questionnaire based surveys and participant observation by graduate students majoring in educational psychology, in addition to report written by participants.

questionnaire based survey

The students have been seen to be more "extrovert" as well as having more "control of their emotion and stress levels" having taken part in the program. In particular, as the latter was not seen in the previous year, it is a clear indication of the impact that the program has on the students' social and emotional aspects.

participant observation

Changes in the students participating in the Campus Experiences in the Kaga Hot Spring Village were seen through on-site observations and interviews. ⇒ It appears to have been a clue towards a deeper pursuit of their interests and also seems to have an impact on their career selection decisions.



Work experience at an organic farm(CT, USA)



International experience (Utah,USA)



Medical care experience (Affiliated hospital)



Local experience (Hokkaido, Japan)



Laboratory program (Hongo campus)



Internship(MIT,USA)

Participants reports

I summarized the plans for the book that I wanted published and gave a presentation to the editor. I was able to enthusiastically proceed with the project that I was interested in at the university, imagining the reaction after its publication. The editor kindly took the project seriously and I was able to experience a fulfilling three weeks. <Publishing an Academic Work>
I was able to spend my time living in an area surrounded by rich nature. In the morning, I woke up to the crowing of a rooster before dawn to see the sunrise, and spent the day fully moving my body. At night, I went to sleep as the sun set and the stars began to appear while listening to a chorus of insects. The feeling of living according to the movement of the sun instead of a clock was very good.
<New England Organic Farm>



The debrief sessions where participants make presentations are run by the students themselves.

Hands-on Activities is only possible with the support of the people who accept students.

Hands-on Activities Support Team, Student Support Group, UTokyo
taikenkatsudou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2541/2542
<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html>





2019年度 体験活動プログラム活動報告

作成	2020年9月
編集	東京大学 社会連携部 社会連携推進課 体験活動推進チーム
住所	〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1
電話番号	03-5841-2541/2542
URL	https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html